中谷宇吉郎雪の科学館友の会会報

六　花

ろっか（題字　矢田松太郎氏）

中谷宇吉郎
雪の科学館友の会

ROKKA

第 54 号
2020年 9 月

猪苗代湖畔から撮ったネオワイズ彗星　　高橋 善樹（福島県会員）

右の山は磐梯山です。彗星の本体は氷を主成分としており「よごれた雪だるま」と言われます。太陽に近づくと蒸発した成分が太陽風や光圧で飛ばされて反対側に尾をひきます。3月に発見された当初の予想に反して増光し、7月中旬には見事な尾を伸ばした姿が夕空を飾りました。（2020.7.19 20:13　カメラFUJIFILM X-E1　F/2.8　30秒　30㎜　ISO1600）

NEWSLETTER OF THE FRIENDS OF NAKAYA UKICHIRO MUSEUM OF SNOW AND ICE
中谷宇吉郎雪の科学館 内　〒922-0411石川県加賀市潮津町イ-106　℡：0761-75-3323　E-mail：yuki-mus@angel.ocn.ne.jp

生誕120年記念の中心　10月の行事

詳細は同封のチラシか館のHPでご確認下さい。

◇10月10日（土）14時から16時
オンラインイベント「ナカヤ君 120回目の誕生日おめでとう」（You Tube 中谷宇吉郎雪の科学館公式チャンネルからライブ配信）
スマホなどでご覧下さい。

◇10月11日（日）の早朝５時半～７時
「夜明けの霧とコーヒー」
雪の科学館中庭で。参加費1000円
定員20名。雪の科学館へ電話申し込みが必要

◇10月8日～18日　（10日は休映、14日は休館）
NHK金沢放送局開局80周年記念［8Kツアーin石川県加賀市］「サイエンスロマン　天才たちが見た風景 中谷宇吉郎」8K上映（15分）
雪の科学館映像ホールで。無料
10時、11時、12時、13時、14時、15時、16時
雪の科学館へ電話申し込みが必要(1回10名)です。
（館内の展示を見る場合は入館料が必要です。）

雪の科学館の近況

生誕120年にあたる今年、雪の科学館では4月に館長に古川義純氏（札幌在住）、顧問に神田健三氏が就任し、指定管理者に新たに中谷宇吉郎記念財団(東京)が加わりました。

新型コロナに伴う交通の困難もあり、札幌・東京・加賀と離れた中での打ち合わせには、ZOOMを利用することが多くなっています。

館は、3月2日～22日と、4月13日～31日、新型コロナ対応で休館しました。その後、感染防止対策を行い、密を避けるために入場者数を20名に制限し、徐々に実験も再開しています。

6月末、生誕120年ののぼりを館の内外に設置しました。又、宇吉郎と館を紹介する短い動画をエアーミュージアムとして制作し、HPから発信しました。

古川館長は、オンライン企画「おしえて館長！雪と氷のQ＆A」を開始し、第1期に7つの質問に答えて館のＨＰに公開しました。第2期の質問受付けは、9月23日から10月23日までです。

又、「神田顧問による館内実験ツアー」が7月24日と8月22日に計3回行われました。館内の実験を一巡した後、中庭に出て氷のレンズでの点火にも挑戦しました。２日間とも加賀ケーブルテレビの取材がありました。

氷のレンズを作って太陽光を集めると、黒い紙から煙が！
では氷はどうなったでしょう？（→4頁）

北海道での生誕100年企画

北海道大学総合博物館３階の鉱物展示の一角で「文士・中谷宇吉郎」の展示が始まりました。９月１日、山﨑敏晴氏が博物館実習の学生３名と展示作業を行いました（写真）。展示は毎月更新されます。

このほか美瑛町、上富良野町、倶知安町の会場でも展示等の行事が予定されています。

大森一彦氏がご逝去されました

宇吉郎・寅彦を中心に、科学者の書誌の研究で多くの業績がある仙台の大森一彦氏が、昨年2019年12月17日、胃がんによりご逝去されました（享年82歳）。

宇吉郎については、他の人が執筆した「参考文献」の1999年までの目録を編集し、館から「中谷宇吉郎参考文献目録」（2000）を発行されました。そして、その補遺版（2010）を友の会から発行し、引き続き、補遺（2016）、補遺（2017）を六花に掲載し、宇吉郎研究に役立つ資料の整備に努められました。

大森氏は、友の会の発会式（1998）の日に記念講演を行い、以後、六花には度々執筆してこられました。

奥様から電話でお聞きしましたが、一彦氏は入院を繰り返しながらも、調べものや執筆は最後まで続けていた、とのことでした。

2010年の雪氷学会の際、久しぶりに再会。右から樋口氏、大森氏、神田（2010.9.29　仙台メディアテークで）

中谷咲子さんがご逝去されました

中谷博士の長女、中谷咲子オルスンさんは、病気療養のため１年前から日本に来て治療や療養をされていましたが、今年2020年7月7日、原宿のご自宅で家族らに見守られながらご逝去されました（享年88歳）。

宇吉郎の随筆「イグアノドンの唄」の最後の場面に出てくる、読書に夢中の長女は、咲子さんのことです。

地質学を専攻し、ボルチモアのジョンズ・ホプキンズ大学で岩石の化学的研究や教育に尽力されました。

1994年、雪の科学館の中庭を作るため、芙二子さんと一緒にグリーンランドへ岩石を採集する旅に参加されました。

又、来日の際には加賀にも時々いらっしゃって、市民や関係者と気さくに交流されました。

中谷宇吉郎没後50年記念シンポ（2012.4.14）で、芙二子さんと一緒に登壇して挨拶された咲子さん（右）

今冬、友の会が雪のイベント
〈文科省委託〉

文部科学省が募集した令和２年度の委託事業「子供たちの心身の健全な発達のための子どもの自然体験推進事業」に、友の会として「雪と氷の野外ワークショップ」で応募したものが、採択されました。

北海道の札幌市青少年科学館前の科学館公園で１月10・11日に、１月16・17日には東川町の羽衣公園で行い、その間は旭岳山麓でレプリカ作成等の準備を行います。そして、2月7日に石川県の白峰村で行い、計５回の予定です。生誕120年（年度）の意味も持たせます。

内容は、今年２月に十勝岳や旭岳で行った内容（六花53号参照）をもとに、雪上ゲームなどの遊びの要素を加える方針。各回20名の小中学生（と保護者）の参加を募集する予定です。

講師・スタッフの構成は相談のうえ神田が決めていきます。予算の関係でスタッフ数は限られますが、希望される方が参加しやすい形にしたいです。

コロナ感染の今後の動向によっては確実に実施できるか懸念もあります。会場や日程の変更があるかもしれません。11月頃、神田が予定会場をまわり、下見と関係者との相談を行い、確定させたいと思っています。

ご支援、ご協力をお願いいたします。

友の会役員会からの報告

今年は宇吉郎の生誕120年であり、当初は誕生日の7月4日に館が記念講演会を開き、その日の午前に友の会が総会を開くことにして、六花53号の12頁に紹介しました。ところが、発送の直前に新型コロナ対応による延期が決まり、急遽、赤スタンプで修正して延期をお知らせしました。

7月4日には、友の会は総会の代りに役員会を開いて前年度の決算を行い（別紙決算書同封）、友の会の当面の方針については、先が見えにくい中なので、独自の行事は控えて館の事業等への協力・参加をしていこうと話し合いました。又、役員改選は次年度に先送りすることにし、現状維持としました。

尚、この夏に２日間行われた「神田顧問による館内実験ツアー」に、友の会から7.24の午前に3人、8.22の午前に5人参加しました。

又、10月の行事の前に、友の会として、館の周辺の草むしりをすることを決めました。

★館周辺の美化活動 草むしり にご参加を！

・9月27日（日）午前8時～9時
　終了後に冬の華でコーヒーを
　雨の時は10月3日（土）に
・持ち物：草刈り鎌、軍手、日除けなど
・参加される方は前日までに役員か館にご連絡下さい。

★10 月 10 日のライブイベントへの協力を！

オンラインイベントでは、全国各地や海外まで、宇吉郎のゆかりの地やゆかりの人をつなぐ企画です。友の会の会員等に、出演をお願いすることがあり、その時は事前にご相談します。よろしくお願いいたします。

●原稿・写真の募集

六花への原稿を募集します。又、１ページ目に掲載する雪や氷に関係のある写真（組み写真も可）も募集します。次号の発行は４月はじめの予定で、締切りは2021年2月末日です。

尚、原稿の内容については、編集委員会から手直しの相談をすることがあります。１ページの写真は、投稿が多い場合は、編集委員会が選考します。

（2頁より）紙が焦げた後、氷レンズには丸や六花の形が！
氷の中がとけてできたチンダル像です！

編集後記

10月に行われる生誕120年の中心企画を前に、チラシと共に六花54号をお送りします。10日14～16時のオンライン企画は、どこにいても視聴・参加が可能です。周りの人にもご紹介下さい。11日の「夜明けの霧とコーヒー」は、陸風から海風に変わる無風時に美しい人工霧を見ようというもの。NHKの８K企画では、生誕120年にあわせて制作された番組を、雪の科学館に特設の本格的な装置で視聴できます。

眞子ゆかり氏の「霧の中を行けば」（国立国会図書館月報から許可を得て転載）について、中谷芙二子氏のコメントを紹介します。「戦中戦後の複雑な世の中を、渾身の力をもって生き抜いた一人の科学者の精神と心意気を歴史のうねりの中に深く分入って観察し捉えた貴重な文章です。」縦書きなので最終頁から前の頁へ進みます。

表紙のネオワイズ彗星の美しい写真は、アマチュア天体写真家として活躍中の高校教師、高橋善樹氏の提供。彗星の主成分は氷です。

金沢気象台の五十里勇人氏による「冬型の気圧配置の特徴と雪に備える情報」はわかりやすく、冬に向かう今の時期にピッタリ。　　　　（神田）

冬型の気圧配置の特徴と雪に備える情報

五十里（いかり） 勇人（はやと）（金沢市会員）

1．簡単に自己紹介

金沢地方気象台の五十里と申します。六花の紙面をお借りして、雪に関する知識や気象情報の活用について紹介させていただきます。

富山県の入善町出身です。その昔、実家前の道路が軒下まで雪に埋もれ、そして雪穴に落ちてしまったという記憶が鮮明に残っています。三八豪雪だと確信していますが、三歳前の幼児の記憶は怪しいでしょうか。小学校３年くらいまでは、だるま型ストーブで日直当番はバケツで石炭を運んでいました。町内に融雪装置が設置されるまで、家族総出で雪かきをしたものです。高校生の頃から白馬エリアのスキー場に足を延ばすようになり、新聞に掲載される積雪情報が楽しみでした。

縁があって富山地方気象台に採用になってから、新潟、長野、名古屋などの地方気象台に勤務しました。それまで、天気予報の現場や降雪の情報提供にも関わってきました。今は、気象庁の防災情報の普及啓発に取り組んでおります。

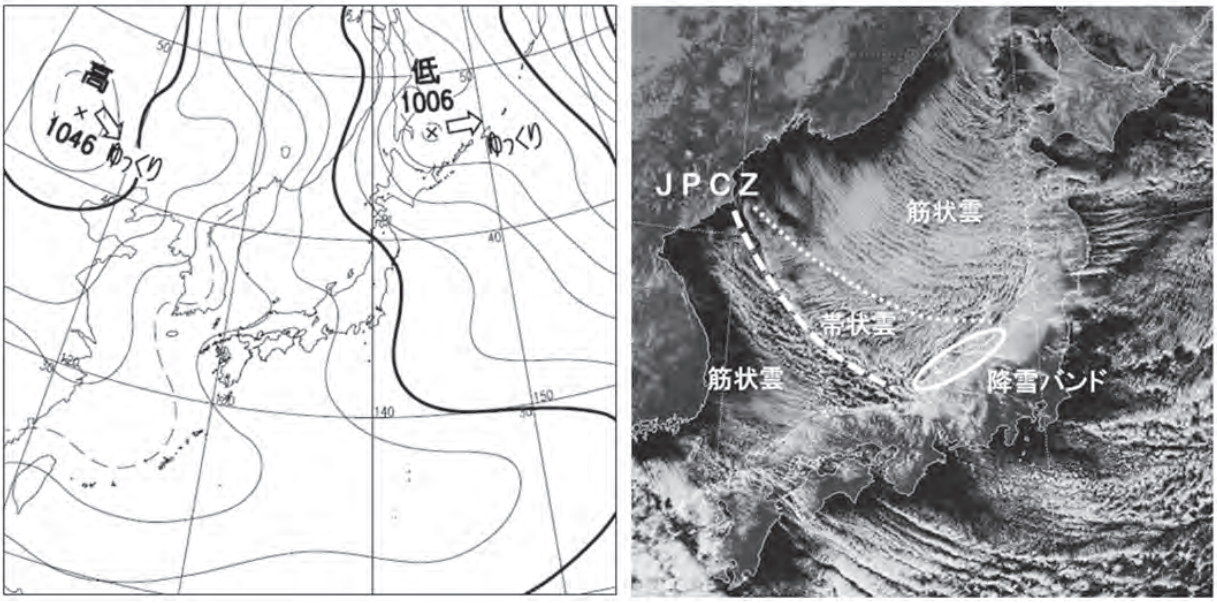
2．冬型の気圧配置

いわゆる「西高東低の冬型の気圧配置」は、大陸に高気圧、日本の東海上から千島列島付近に発達した低気圧がある気圧配置です。冬季になると、この気圧配置が頻繁に現れて、日本海側では曇りや雨または雪の日が多くなります。冬型の気圧配置に、「強い」「弱い」の基準はありません。あくまでも目安として、地上天気図で日本列島に等圧線が５本以上縦に並んでいるときに「強い」冬型の気圧配置と呼ばれることが多く、同じように「強い寒気」の基準はありませんが「輪島上空5500メートル付近でマイナス36℃以下の強い寒気」などと表現されます。

冬型の気圧配置は、おおむね**山雪型**（やまゆきがた）、**里雪型**（さとゆきがた）の２つのパターンに分けることができます。山雪型は、日本の近くで低気圧が発達しており、地上天気図の等圧線の間隔は狭く季節風が強まっていることを表しています。里雪型は、日本のはるか東海上で低気圧が発達し、本州付近の等圧線の間隔が広くなり、日本海に小さな低気圧がありますと、逆に等圧線が袋状に湾曲します。

3．日本海の雪雲の特徴

強い冬型の気圧配置になりますと、気象衛星の画像で何本もの**筋状雲**（すじじょううん）を見ることができます。さらに、朝鮮半島の付け根あたりから南東方向の日本海沿岸部に筋状雲と異なる形状の**帯状雲**（おびじょううん）の広がりをみることができます。帯状雲は、朝鮮半島の白頭山などの山々が影響して、季節風が分流し再び日本海で合流



2010年1月15日12時の地上天気図（里雪型）と気象衛星（可視画像）

近年の主な大雪と要因

	大雪地域	要因等
2005/06年(H18)	北海道、東北、北陸、山陰	寒気の放出、偏西風の蛇行、日本海の海面水温
2009/10年(H22)	新潟県	里雪型、北陸地方沿岸に発生した降雪バンド
2010/11年(H23)	東北、北陸、山陰	寒気の放出、偏西風の蛇行、日本海の海面水温
2011/12年(H24)	日本海側では「平成18年豪雪」に次ぐ積雪	偏西風の蛇行、ブロッキング高気圧
2012/13年(H25)	北海道、東北、北陸	寒気の放出、偏西風の蛇行
2013/14年(H26)	関東甲信、東北、北海道	発達した南岸低気圧
2018年（H30）	北陸地方の平野部	寒気の放出、北陸地方沿岸に発生した降雪バンド

(収束) する付近に現れます。この収束帯は**JPCZ**[1]**(日本海寒帯気団収束帯)** とよばれ、約1000キロメートルに達し、渦状の雲や小さな低気圧が発生することもあります。

北陸地方の沿岸部に目を向けると、陸風と季節風による顕著な風向の**シアーライン**[2]がしばしば形成されます。古くから北陸不連続線とよばれています。このシアーライン上で下層の収束が維持されると降雪雲の世代交代が起こり、**降雪バンド**により局地的な大雪をもたらします。

3．近年の大雪災害

豪雪とは、著しい災害が発生した顕著な大雪で、積雪や降雪量の定義はありません。豪雨と同じように、命名された災害の名称か、もしくは地域的に定着している災害の通称として使用されます。気象庁の豪雪の命名は、「昭和38年１月豪雪」（三八豪雪）と、「平成18年豪雪」の２度です。命名されていないものの昭和56年の「五六豪雪」も記録的な豪雪です。

近年の大雪の要因はさまざまで、北極からの寒気の放出と偏西風の蛇行、日本海の海面水温の高い状態も影響していると考えられます。一方、本州南岸を低気圧が通ると低気圧が寒気を引き込み、関東地方南部や首都圏で大雪を降らせることがあります。平成26年2月は、関東地方内陸や甲信地方では記録的な大雪になりました。まだ記憶が新しい平成30年2月には、福井県嶺北から石川県加賀地方を中心に大雪となり、福井市では五六豪雪以来37年ぶりの積雪が観測されました。この記録的な大雪により、国道８号線の立ち往生や通行止め等により物流が遮断され、地域生活に大きな影響を及ぼしました。

1 Japan sea Polar air mass Convergence Zone
2 風向又は風速が急に変化しているところを結んだ線

4．段階的に発表する気象情報

気象台では、大雪災害に結びつくような現象が予想される場合、その後の危険度の高まりに応じて、段階的に気象情報を発表しています。

大雪に関する**早期天候情報**（北陸地方）は、その時期としては10年に1度程度しか起きないような著しい高温や低温、降雪量（冬季の日本海側）となる可能性が、いつもより高まっているときに、6日前までに注意を呼びかける情報です。

大雪警報級の現象が５日先までに予想されているときには、その可能性を**早期注意情報（警報級の可能性）**として［**高**］、［**中**］の2段階で発表します。

気象情報は、警報や注意報に先立って24時間から2～3日先に災害に結びつくような激しい現象が発生する可能性のあるときに発表します**大雪警報・大雪注意報**は、市町村ごとに過去の災害を網羅的に調査した上で、重大な災害の発生するおそれのある値を警報、災害のおそれのある値を注意報の基準に設定して発表します。事前に防災対応ができる時間（リードタイム）を考慮して発表します。大雪警報・大雪注意報の場合は、3～6時間のリードタイムをとっています。

さらに、顕著な降雪が観測されて今後も継続する見込みの場合に、短時間の大雪に対して一層の警戒を呼びかける**顕著な大雪に関する石川県気象情報**を発表します。

大雪をもたらす降雪雲の動向は、気象衛星や気象レーダーで捉えられるようになってきました。また、2019年からは、現在の積雪・降雪の分布を推定する

新しい雪の情報の提供を開始しました。アメダスの積雪計による観測値に加え、現在の積雪の深さと降雪量の分布を推定する「解析積雪深・解析降雪量」を現在の雪として気象庁ホームページで提供しています。雪の観測が行われていない地域を含めて積雪・降雪の分布を把握できるようになり、外出予定の変更や迂回経路の選択等に利用できます。

雪に関する情報は、インターネットやスマートフォン、あるいは地上デジタルテレビのデータ放送でも簡便に閲覧ができます。防災気象情報の利用と併せて、大雪に備えましょう。

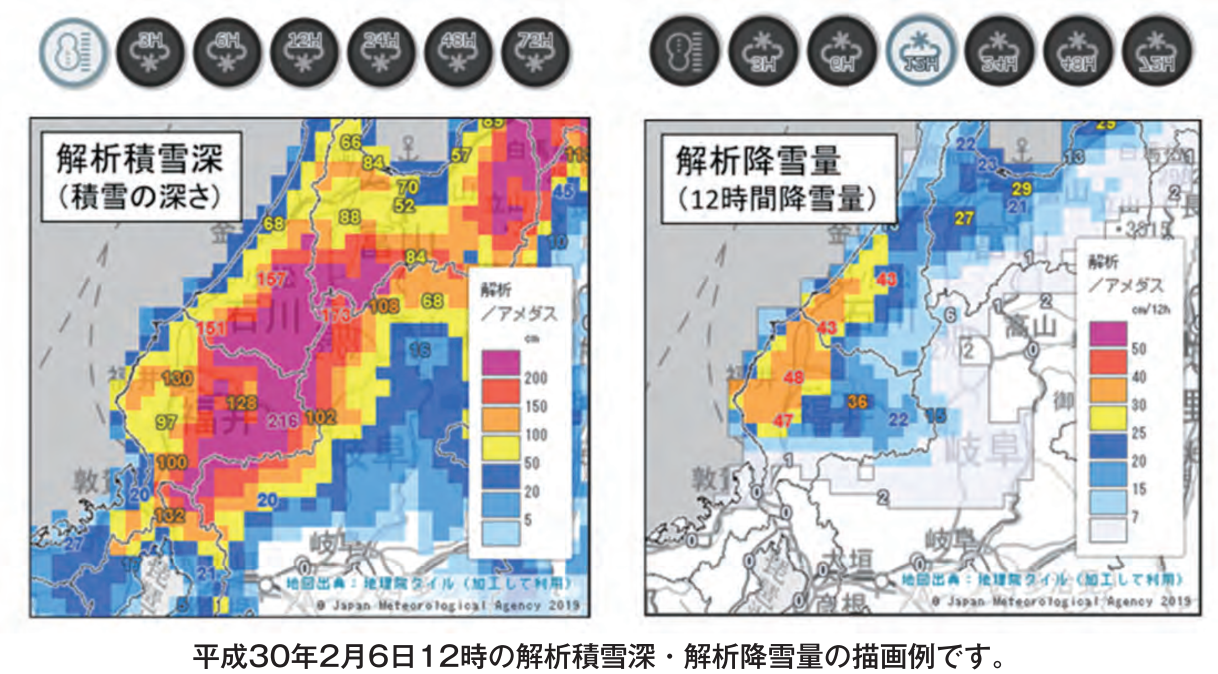
（金沢地方気象台次長）

「現在の雪」二次元バーコードです。
スマートフォンで読み取りください。

気象庁マスコット「はれるん」

大雪に関する早期天候情報	6日先から14日先までの期間で、5日間平均気温が「かなり高い」「かなり低い」となる確率が30%以上、または5日間降雪量が「かなり多い」となる確率が30%以上と見込まれる場合 月曜日（祝日などの場合は火曜日）と木曜日の14時30分ごろに北陸地方などの地方ごとに発表

大雪の数日前～ 約１日前	早期注意情報（警報級の可能性） 大雪注意報	○大雪に関する石川県気象情報 ・概ねの対象地域や予想降雪量を示して、大雪となる可能性を共有 ・精度良く予測が可能な大雪の場合には、社会的影響の軽減や関係機関の防災活動に資するため、「48時間先からの24時間予想降雪量」を記述）
大雪の半日～ 数時間前	（大雪警報に切り替える可能性が高い）大雪注意報	
大雪の数時間～２時間程度前 大雪となる 記録的な大雪のおそれ	大 雪 警 報	○大雪に関する石川県気象情報 ・大雪に対する警戒を呼びかけ ○顕著な大雪に関する石川県気象情報 ・短時間の大雪に対する厳重な警戒の呼びかけ
広い範囲で 数十年に一度の大雪	大雪特別警報	・大雪に対する最大級の警戒を呼びかけ



平成30年2月6日12時の解析積雪深・解析降雪量の描画例です。
数字はアメダス積雪計の観測値で、単位はセンチメートルです。

文中に登場する人物肩書
・岩波茂雄　岩波書店創業者
・小林勇　　編集者、のちに岩波書店会長
・西田幾多郎　哲学者
・安倍能成　哲学者、教育者
・小宮豊隆　独文学者
・仁科芳雄　物理学者
集合写真のみに登場する人物肩書
・鈴木大拙　仏教学者
・和辻哲郎　哲学者

○引用
1「硝子を破る者」『中谷宇吉郎随筆集』樋口敬二 編　岩波書店 1988.9<請求記号 M19-E10>
2,7『武見太郎回想録』日本経済新聞社　1968<請求記号 289.1-Ta5192t>
3,4 中谷宇吉郎「牧野伸顕氏の思出」『文芸春秋』27巻4号 1949.4<請求記号 Z23-10>
5,6「島津斉彬公」『中谷宇吉郎随筆集』樋口敬二 編　岩波書店 1988.9<請求記号 M19-E10>
8 中谷宇吉郎 著『雪』岩波書店　1947<請求記号 451.66-N532y>
○参考文献
『中谷宇吉郎随筆選集　第2巻』朝日新聞社　1966<請求記号 404.9-N532n-a>
中谷宇吉郎雪の科学館友の会 編『中谷宇吉郎ゆかりの人』中谷宇吉郎雪の科学館友の会　2009.3<請求記号 GK185-L76>
杉山滋郎 著『中谷宇吉郎　人の役に立つ研究をせよ』ミネルヴァ書房　2015.7<請求記号 GK185-L203>
東晃 著『雪と氷の科学者・中谷宇吉郎』北海道大学図書刊行会 1997.12<請求記号 GK94-G11>

封筒の表裏。封筒下部には検閲済のシールが。

戦時下という深い霧の中にも似た状況にあって、幕末この国の一隅に、透徹した知性を持つ政治家が点した合理主義の灯が確かにあったことを伝えようとした牧野。その語りを側近く聞いて、悪化の一途をたどる戦況を意識しながらも淡々と研究を続けていた中谷。「消霧車」の完成を目指しながら、もはや風前の灯となっていた合理主義を、日々の研究の実践で守り抜こうという秘めたる決意があったのではないだろうか。

封筒表には、焼け出された牧野が疎開した千葉・柏の転送先が朱書きされている。この地に先に居を移していた武見が、敗戦間際のこの時期の牧野の様子を次のように書き残している。

「疎開中のことで最も印象深いのは、牧野伯が参内して帰ってこられるたびに「なんとか終戦の方法はないものか」と非常に心配して話しておられたことである。……ついに広島に原爆が落ちた時、私はそれが原爆であることを牧野伯に知らせた。伯は「原爆を開発している仁科君には気の毒だが、これを機会に講和を結ばなければ国がなくなってしまう」といった。そして……牧野伯は参内して陛下に原子爆弾であることを奏上したのであった。(7)」

牧野伸顕は昭和24(1949)年1月、この地で89年の生涯を閉じた。

“雪の結晶は、天から送られた手紙である。(8)”

これは、雪の結晶の様々な形状はそれが生成された上空の気象条件によって決まるという科学的事実を、読む者に詩情を感じさせずにはおかない言葉で表現した中谷の名言だ。中谷は雪の美の中に秘められた科学を見出し、それを詩の言葉で私たちに伝えた。では、この書簡によって、年齢や境遇を超えた科学者と老政治家の温かな交友があったことを知り、さらにその行間に隠れた我が国の近代の歴史で繰り返された苦い経験に気づいた私たちは、それを次代に伝える言葉を中谷のように紡ぎだせるだろうか。

今日、霧は出ていないだろうか。

最終頁からご覧ください

は、牧野が序文を付けて出版した『島津斉彬言行録』（岩波文庫）のことである。時あたかも列強諸国からの開国要求に反発する攘夷熱が国じゅうで高まりつつある中、ひとり冷静に時代状況を観察・分析し、対抗手段としての富国強兵を成し遂げるために、敵である西洋の科学の知を精力的に導入して殖産興業を推進しようとした斉彬。

「世間はいはゆる緒戦の戦果に酔つてゐたが、牧野さんは、日本の科学兵器のことを、ひどく心配して居られた。東条等のやり方では、日本の科学技術は進歩するはずがないといふやうなことを、時々もらされた、そして島津斉彬公の治績を賞揚されて、その言行録の出版を考へて居られた。それを政府の要路の人たちに読ませたいといふような気持があつたらしい。(4)」

すでに現実の政治を動かせる立場ではなかった牧野は、合理的知性をもった斉彬のような指導者の登場に望みを託す他ないという心境だったのだろう。「本が出来たら、一冊東条にやって、読んでもらうつもりだ(5)」った、しかし、出版は昭和19（1944）年11月にずれ込み、「やっと出来上ったが、もう間に合わない(6)」…。

『島津斉彬言行録』

幕末の薩摩藩主島津斉彬の治績を、弟・久光が側近の市来四郎に編述させた記録を元に、牧野の序文をつけて出版された。牧野は、「世の国事人事に預る人々の此文献の内容を味ひ処世の参考ともならば幸なり」と書いている。昭和19年11月5日第一刷発行。
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1058075（モノクロ）

『科學の芽生え』

中谷による、『島津斉彬言行録』のちょうど手引書のような本。斉彬が着手していた殖産興業策の数々の試みを科学者の視点で解説している。そして、「権力と科学とは、普通には両立し得ないものである」、しかし、斉彬のように「為政者が本当によく科学を理解し、そしてその人が実行力を持つてゐた場合には」、研究が進み、それが実用化されて科学が社会に貢献することを強調している。後記の日付は「昭和二〇、四、二五」で、中谷が戦時下の研究生活で様々な矛盾に直面して苦労していたことが想像される。昭和20年9月20日発行。
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1063034（モノクロ）

書簡の翻刻全文 ※句読点を補い、旧字体は新字体に改めた。

拝啓　今回の再度の空襲では渋谷附近にも被害が御座いました由伝聞、神山の方は如何だったかと御心配申し上げます
当地では二十六日の空襲以来全く東京の情勢が分らず
武見さんの所も教文館、御宅共に戦災を被られたらしく
推察痛心致して居ります。何卒（なにとぞ）御被害なく御健勝の程を祈り上げます。申しおくれましたが先夜御伺ひしまして又々御馳走様に相成り、難有く御礼申しあげます。帰札致しまして
御懇切な御手紙を頂戴致して居りまして、誠に難有く存じました。
早速御礼状差上可処、又々苫小牧飛行場に於て昨年の霧の研究のつづきを開始致しますので、その準備等に追はれ
失礼致して居りました。今年は愈々霧を消す実験を始めるので大分御仕掛で御座います。消霧車といふものを
一台試作、近く出来上りますが、一寸（ちょっと）黄帝時代の話のやうで自分でも果して巧く晴れるかどうか不安に思って居ります。

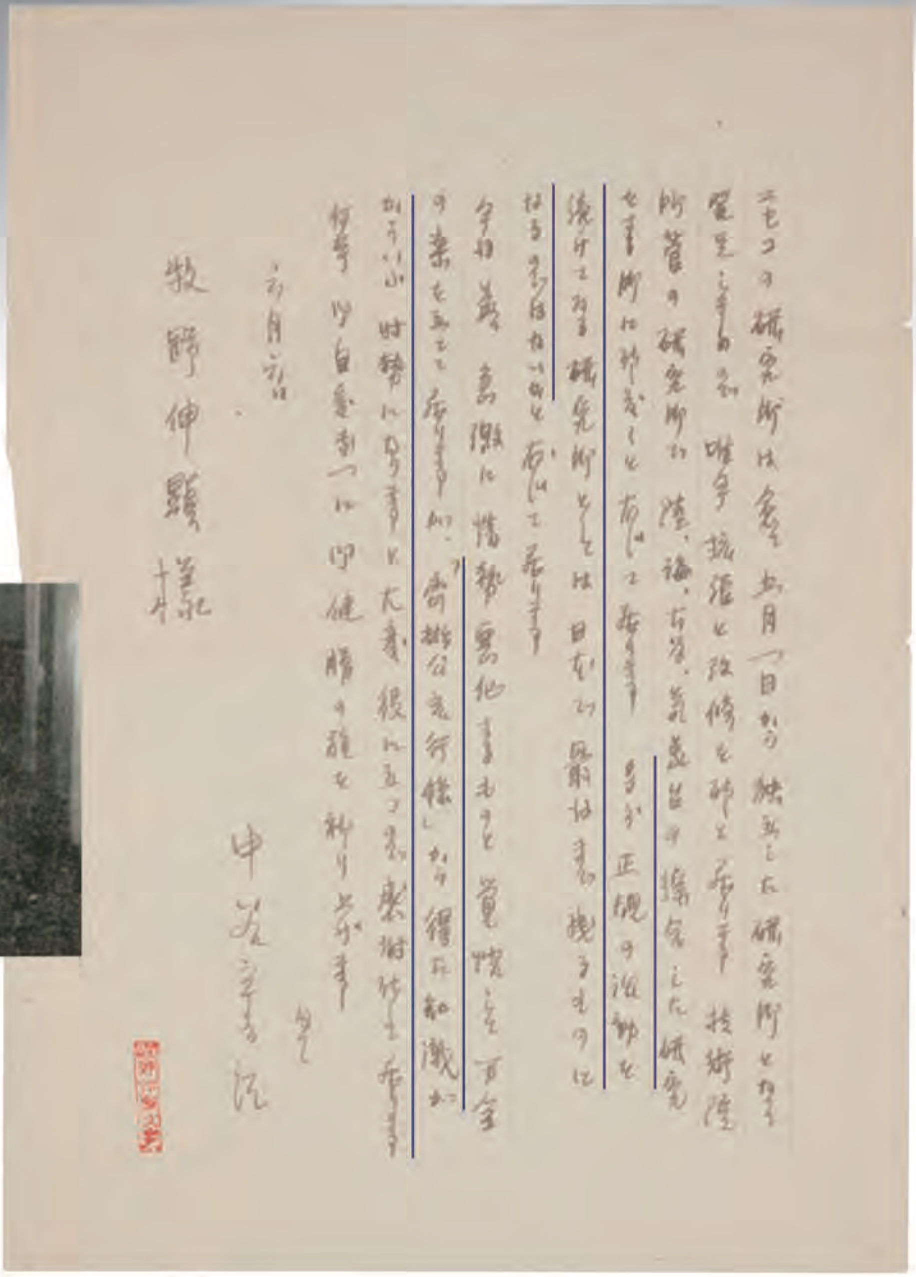
ニセコの研究所は愈々五月一日から独立した研究所となつて発足しましたので唯今拡張と改修を致して居ります。技術院所管の研究所で陸、海、大学、気象台の綜合した研究をする所に致度（いたしたし）イ（い）と存じて居ります。多分正規の活動を続けてゐる研究所としては、日本で最後まで残るものになるのではないかと存じて居ります。
今後益々急激に情勢悪化するものと覚悟して、万全の案を立てて居りますが、「斉彬公言行録」から得た知識がかういふ時勢になりますと大変役に立つので、感謝致して居ります。
何卒御自愛専一に御健勝の程を祈り上げます。

匆々

六月六日　中谷宇吉郎

牧野伸顕様

（封筒）
東京都渋谷区神山町四五
牧野伸顕様
（朱書転送先）千葉県東葛飾郡柏町
宇高田九九五
木方敬一方



牧野伸顕様

中谷宇吉郎

昭和19年5月、銀座「浜作」での会合（前列左から鈴木大拙、牧野伸顕、西田幾多郎。後列左から岩波茂雄、和辻哲郎、武見太郎）

出典：『武見太郎回想録』日本経済新聞社 1968<請求記号 289.1-Ta5192t>

武見太郎（1904-1983）

医師。慶応義塾大学医学部を経て、昭和12（1937）年に理化学研究所の仁科研究室に入る。昭和14（1939）年に銀座の教文館ビルに診療所を開設し、多くの政界・財界の名士の主治医となる。昭和25（1950）年に日本医師会副会長、昭和32（1957）年から同57（1982）年まで同会長を務めた。

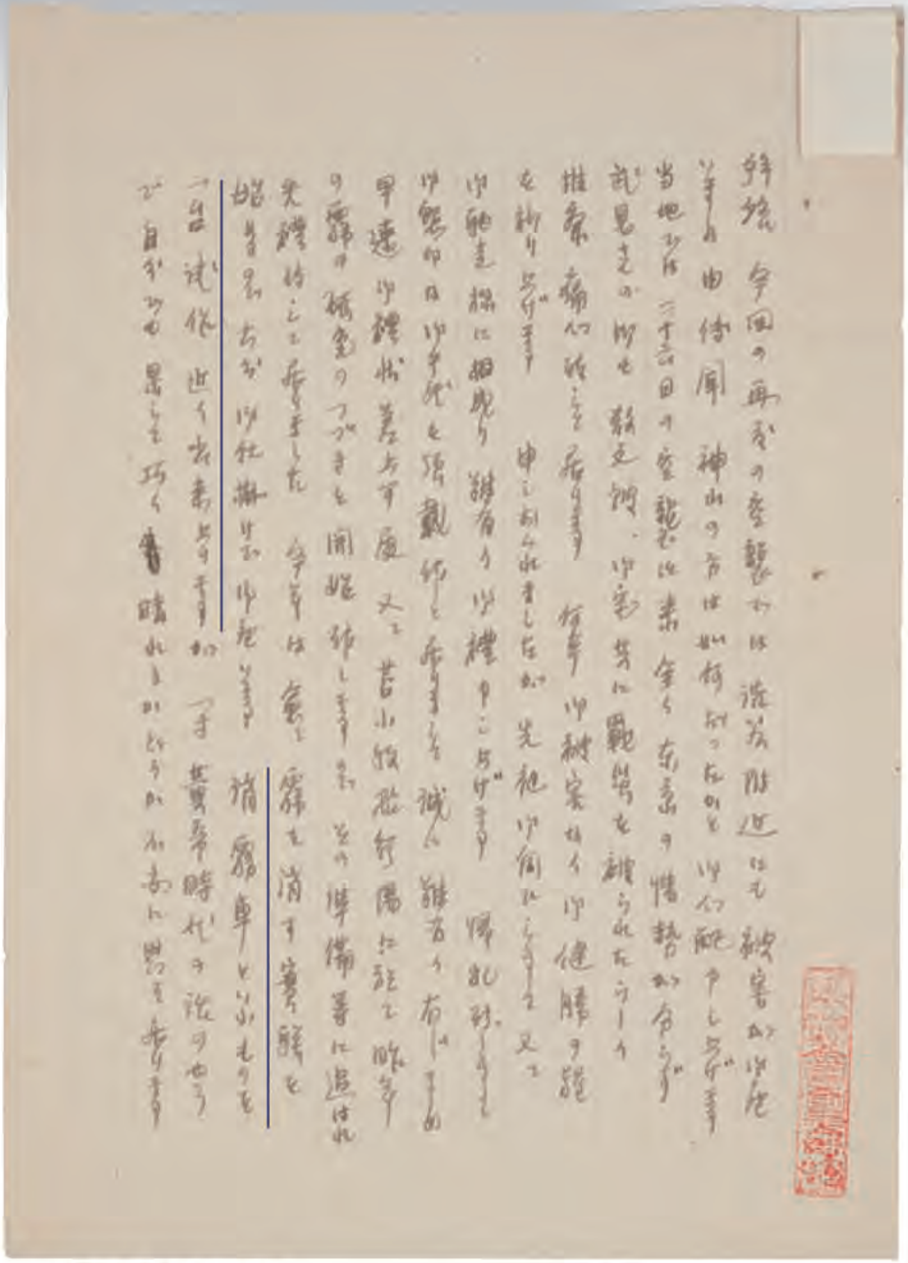
に学んだ。帰国の後、再び三等書記生として赴任したロンドンでの公使館勤務を振り出しに、若くして政府の要職を歴任、外務大臣や内大臣も務めて昭和天皇の信頼も厚い。その半生は明治以降の我が国の政治史の歩みに重なっている。それだけに、軍部が急速に政治に影響を及ぼし始めるようになると親英米派の大物と目され、五・一五事件（1932年）、二・二六事件（1936年）でも命を狙われた。

「さう言へば、いつか牧野さんは「私はどういふ巡り合せ（ママ）が、暗殺とは縁があつてね」といふ話をされたことがある。原敬とは東京駅の悲劇の日の朝打合せの用事があり、森有礼の暗殺にも、星亭のそれにも因縁があった。それから大隈重信遭難の爆音もきかれた由である。(3)」

父親をはじめ身近な人たちを暗殺で失ってきた牧野にとっては、自分を狙った暗殺未遂事件もまた歴史の一コマにすぎないと達観していた様子が窺える。

「斉彬公言行録」から得た知識がかういふ時勢になりますと大変役に立つので、感謝致して居ります

手紙の最後の方に出てくる「斉彬公言行録」



※紺の線は本稿での引用箇所

牧野伸顕（1861-1949）
外交官、政治家。明治から昭和戦前期にかけて内政、外政でともに重きをなした。大久保利通の次男、三島通庸の女婿。長女の雪子は吉田茂夫人。また孫の秋月英子が武見太郎と結婚した。
肖像の出典：『日本貿易協会五十年史』浜田徳太郎 編　日本貿易協会　昭11<請求記号 698-6>

いた中谷を診察した。外観からはもはや助かりそうになかったが、入院して検査することになる。すると武見の検査に関心をもった中谷が「よたよたのからだで[2]」病室から研究室にやってきて、自らの実験物理学の知識に基づいて検査機器の調整のコツを伝授したという。俎板ならぬベッドから起き出してきた患者が手伝って、それまでの診断を覆して肝臓ジストマと断定、見事に治癒させたことが機縁となってふたりの親交は始まった。この顛末を記す武見の回想録には、武見が岩波茂雄を通じて知り合った錚錚たる学者たちの名前が出てくる。例えば西田幾多郎、安倍能成、小宮豊隆、仁科芳雄。やがてこの岩波人脈や理化学研究所等での武見の交友関係が、松濤（渋谷区神山町）にあった牧野邸で一種のサロンを形成するようになる。

武見に連れられて中谷が初めて牧野邸を訪れたのは、太平洋戦争が始まって間もない頃だったという。当時80歳を超え政治の表舞台からは身を引いて静かな隠退生活を送っていた牧野は、学者たちの来訪を歓び、彼らが披露する近代科学の話題や新しい思想のことを好んで聞いた。そして牧野も、自ら経験してきた明治以来の様々な出来事を語って訪問者をもてなした。十代初めに父に付き添って岩倉使節団に同行、そのまま留学生として米国

ここに掲載の計5頁は、国立国会図書館ウェブサイトから転載したものです。
眞子ゆかり様 のプロフィールは、
平成5（1993）年に国立国会図書館に入館、以後、法令議会資料課、政治史料課（憲政資料室）等に所属。現在、議会官庁資料課。

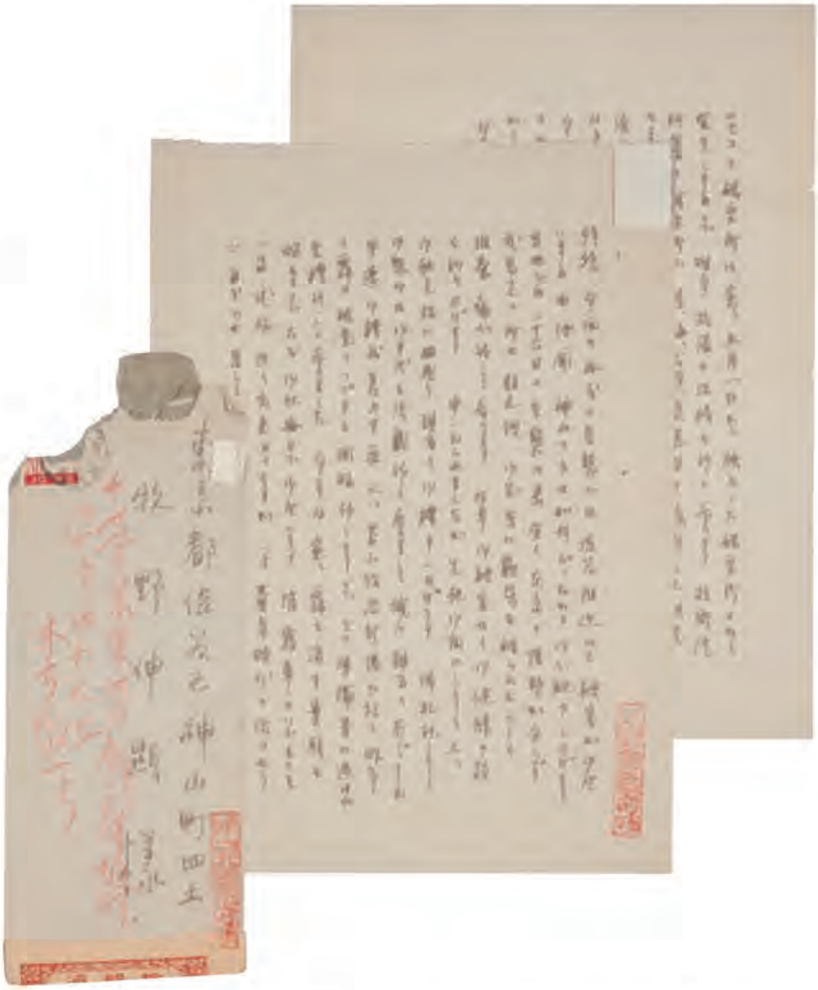
今月の一冊　国立国会図書館の蔵書から

霧の中を行けば　―中谷宇吉郎の書簡

眞子ゆかり

中谷宇吉郎（1900-1962）
物理学者。東京帝国大学理学部で寺田寅彦の教えを受ける。卒業後、理化学研究所で寺田の助手となり、英国留学後、昭和5（1930）年北海道帝国大学助教授、昭和7（1932）年同教授となる。雪の結晶の研究に取り組み、昭和11（1936）年世界で初めて人工雪を作ることに成功。随筆家としても知られる。

肖像の出典：『現代随想全集　第10巻（寺田寅彦、中谷宇吉郎集）』創元社　1953<請求記号 914.6-G295>



中谷宇吉郎書簡　昭和20（1945）年6月6日
<牧野伸顕関係文書 360-1>

消霧車といふものを一台試作、近く出来上ります

中谷宇吉郎は、昭和20（1945）年5月下旬の空襲後の牧野伸顕を見舞う書簡の中で、その多くを割いて、苫小牧飛行場とニセコの研究所で行っていた研究の進捗状況を淡々と報せている。とは言え、米軍の空襲が日本各地で甚大な被害を及ぼす中、「多分正規の活動を続けてゐる研究所としては、日本で最後まで残るものになるのではないか」という悲壮な見通しには、避け難い破局の予感が読み取れる。文中に出てくる「消霧車」の開発は、滑走路を覆う霧を人工的にはらして航空機の飛行を可能にしようと進められていた戦時研究で、その後、「試験がほぼ完了して、一同ホッとした時に終戦になった」(1)。

雪の結晶の研究に取り組み、世界で初めて人工雪を作ることに成功した物理学者と、明治の元勲大久保利通の次男で宮内大臣や内大臣を務めた牧野伸顕。この二人を結び付けたのは、書簡中でも被災したらしいとの噂を聞いて心配されている武見太郎である。医師である武見は牧野の孫娘と結婚することになる以前、旧知の岩波茂雄と小林勇から託されて、手の施しようもないほど重篤な状態に陥って

※紺の文字は書簡からの引用で、読点を補った。
また、本文中の引用の旧字体は新字体に改めた。